

シニア大学・大学院アンケート調査結果のまとめ

実施期間	・卒業生(平成 29/30 年度)	令和元年5月13日～6月10日	37.5%	36人/96人
及び	・大学4年生	令和元年7月16日	88.6%	39人/44人
回収率	・大学院1年生	令和元年7月25日	51.3%	20人/39人
	・大学院2年生	令和元年7月18日	95.2%	20人/21人

アンケートの調査対象として、すでに6年間、または4年間の課程を修了した人とまもなく各課程を終える学生200人を選び、卒業生は郵送で、在校生は各講座日に配付して実施しました。

全体の回収率は57.5%で、115人からの意見提出となりました。

1 卒業後の活動について（複数回答）

・卒業後に予定している活動（現在行っている活動）は何ですか。

37件 ア 町内会や市民委員会などの地域活動

10件 イ 子育て支援や介護支援などの福祉活動

7件 ウ 講師やインストラクターなどの文化活動

8件 エ 民生(児童)委員や統計調査員などの公的活動

39件 オ その他のボランティア活動等

20件 カ シニア大学院・百寿大学などの生涯学習活動（卒業生アンケート：この項目なし）

1件 キ 働く（卒業生アンケート：カ 働いている）

37件 ク 特になし（卒業生アンケート：キ 特になし）

※1 何らかの活動を予定している人、またはすでに活動している人は、115人中78人で、活動率は67.8%ですが、「カ 生涯学習活動」のみの11人を除いたボランティア等の社会的活動(ア～オ, キ)で見ると67人、58.3%になります。

社会的活動の内訳(複数回答のため合計 102件)では、「オ その他のボランティア活動等」39件を除くと、「ア 町内会や市民委員会などの地域活動」37件が最も多く、「イ 子育て支援や介護支援などの福祉活動」10件、「エ 民生(児童)委員や統計調査員などの公的活動」8件と続いています。

今回の調査では活動開始の時期やきっかけについての質問がないため、学習の成果との関わりは不明ですが、シニア大学の主たる目的である「まちづくりの一翼を担う人材を輩出すること」において一定の成果が見られることから、今後は学生の意識を高め、多様な社会的活動につなげるためのより具体的・実践的な取組が課題であると考えます。

・シニア大学・大学院で得た知識や経験、情報で役立っているものはありますか。

90人 ア あり

25人 イ 特になし

※2 「ア あり」は115人中90人で、78.3%の人が何らかの知識や経験、情報が役立っていると回答しています。

主な内訳としては、旭川の歴史や文化、医療や介護など具体的な講座を挙げている人が多く、人との出会いや仲間づくり、ボランティア活動や地域貢献へのきっかけ、学んだことを人に伝える方法など対人関係の広がりを挙げた人も27人います。

2 今後のシニア大学について（複数回答）

・ 今後、シニア大学が高齢者の社会参画や生きがいづくりのために必要なことは何ですか。

41件 ア カリキュラムや講座内容の見直し

17件 イ 大学4年制・大学院2年制の見直し

20件 ウ 入学対象者など年齢の見直し

45件 エ 特になし

25件 オ その他

※3 115人中70人から具体的な意見をいただきました。その内訳(複数回答のため合計103件)は、順に「ア カリキュラムや講座内容の見直し」41件、「ウ 入学対象者など年齢の見直し」20件、「イ 大学4年制・大学院2年制の見直し」17件となっています。

(「エ 特になし」45件・人)

・ 「ア カリキュラムや講座内容の見直し」の具体的な意見としては、現カリキュラムへの指摘として「百寿大学とボランティア活動があるくらいで講座の内容が変わらない」「重複している内容の講座が多い」といったもの、また新たなカリキュラムを望むものとして「人生を心豊かに送る楽しい講座（落語、話し方、おしゃれ）」「フリーターキング」「社会参画や生きがいを持てる活動の場の紹介」「院でのカリキュラムを大学2年くらいで学習」「大学1年からグループワークを盛り込む」などがある一方で、「院での陶芸等ものづくり科目の復活」を希望する意見や特に卒業生からは「我が街旭川」についての必要性や負担に感じたなどの否定的な意見（6件）が出されました。

・ 「イ 大学4年制・大学院2年制の見直し」の意見については、「現状のまま」は4件、「長くする」は1件、「短くする」は7件で、この7件のうち6件は「大学院は不要」とするものです。

・ 「ウ 入学対象者など年齢の見直し」の意見のうち、入学年齢について「現状のまま」は1件、「上げる」は5件（70歳以上1件、65歳以上4件）、「下げる」は3件（55歳以上2件、60歳未満1件）となっています。また、「入学時に上限を設ける」は5件あり、最高で80歳以上、最低でも75歳以上は制限すべきとの意見です。

- 「オ その他」の意見の中で、今後の大学運営への提案としては、「ボランティア活動のPRなど在学中に卒業後の活動のアドバイスを」「運営役員や会議の簡素化」「学生以外に聴講生として登録」「定員割れが生じた場合、過去在籍した人も入学許可しては」「予算が足りない場合はもっと集金を（有料化？）」（2件あり）「教育・生活・学習目標の成果をどのように評価しているか」などがあり、一方では「シニア大学・大学院は現状どおりでよい」という意見が5件寄せられています。

「今後のシニア大学について」の項目では、115人中半分近くの45人が「特になし」と回答しており、このことは「可もなく不可もなく」と捉えるべきなのか判断に迷うところですが、具体的に回答を寄せた70人の意見をもとにまとめますと、カリキュラムや講座内容、6年制の見直しについては、それぞれ意見が分かれる傾向にあるものの、公民館事業課が推し進める「社会の要請」に基づいたより実践的なカリキュラムの設定、大学院との統合による大学4年制への変更は、いずれの項目にも同様の意見が寄せられており、市民から一定の理解と支持を得られるものと考えます。